



すなおにあかるく growing

発行/文京区教育委員会 庶務課 編集/文京区青少年委員広報誌編集委員 TEL : 03-5803-1306

◀「すなおにあかるく growing」は従来の青少年委員日より「すなおにあかるく」を引き継ぎ、青少年委員に関する情報を発信してまいります。

文京区青少年委員は、各小・中学校長より推薦され、文京区教育委員会から委嘱された非常勤公務員です。学校支援を中心に青少年健全育成の推進に努め、学校と地域のパイプ役やコーディネーターとしての役割を担っています。

第41回中学生サミット連絡会 ～12月6日 会場校・文京区立本郷台中学校～

まずは参加者の緊張をほぐすために、アイスブレイキングから始まりました。制限時間内に名前順や生年月日順に整列して、成功するかを楽しく取り組んでいました。緊張がほぐれたところで、いよいよ話し合いの始まりです。

【テーマ】

- ① 学校生活を活性化させるために、これから取り組むこと
- ② 今の中学生のインターネットや携帯電話の使用の仕方

事前に各校の生徒会役員は発表内容を細かく考えて、まとめてきている様子でした。

テーマ①について学校生活の活性化のために多かった意見は、挨拶運動をする、資源を大切にするためにリサイクル運動をするということでした。挨拶運動といっても単純な挨拶にとどまることなく、笑顔で挨拶とか、挨拶運動の回数を増やすなど様々な意見を発表していました。

挨拶は人間関係を築く基本となるものです。私たち大人も本当に大切にしていきたいと再認識しました。

テーマ②については、中学生であれば当然興味を持つ話題という事もあり、たくさん意見が挙がりました。

インターネットについては、宿題や調べものの際にはとても便利であるという意見が多くみられた反面、クリックするだけでどんどん進んでいくので怖い部分もある、時間を気にしないといつまでもインターネットの画面に見入ってしまう恐れがある等の意見がありました。

携帯電話の使用に関しては、コミュニケーション手段の1つである、LINEを代表とするSNSについての意見交換が活発にされました。

書き込まれた内容を無視する、無制限に書き込みを行い寝不足になる、ながらスマホは危険、気軽に見知らぬ人とつながる怖さなど、否定的な意見が多く挙がった反面、使い方をしっかりすればとても便利で素晴らしいものだという考え方をしているようです。

参加者の発言はともしっかりしたものが多く、傾いている傍聴者の姿もたくさん見られました。今回交わした様々な意見が今後の中学校生活の中で活かされ、有意義な形で実現されることを期待しています。



～中学生サミットを終えての感想を一部ご紹介～

参加者より

- ★初めての参加なので緊張した。 ★もっと他校と交流する機会が欲しい。
- ★意見をまとめてきたけれど、納得のいく発表ができなかった。
- ★他校の生徒会と交流ができてとてもよかった。 ★次回も参加したい。
- ★九中ではIBP (いじめ・防止・プロジェクト) 活動を、ポスターや署名活動などで行っているが、六中の「いじめをしないと宣言した生徒がリボンを付けている」との発言を聞いて、九中でもやってみたいと思った。

見学者より

- ★前は参加したけれど今回は他の役員にお願いしました。見学しているとやはり参加したくなった。
- ★みんな、もっともっと熱い意見のやり取りをするべきだ。
- ★単独校の開催ではなく共同開催をすることで、もっと深い交流が持てるのではないのでしょうか。
- ★今回初めて傍聴しました。質問が多くて良かったです。自分もネットをしているので、他の人の意見が聴けて良かったです。

中学生サミット連絡会は、文京区青少年委員会が実施し、全区立中学校の生徒会役員が参加しています。現在は会場校の生徒会役員が、テーマの設定・会場設営・議事進行を行っています。各校の特色や独自の取り組みに関する情報交換を行い、生徒会の活動を活性化させて自主性を育てること、学校間の親睦を図ることを目的としています。

どなたでも傍聴可能です。未来を担う中学生の意見に、皆様も耳を傾けてみませんか？



学校と地域のパイプ役

青少年委員の普段の活動を紹介します！

学 校 支 援

私たちは担当する学校で地域の教育力を活かしながら、授業支援・学校行事支援・クラブ部活動支援などを行っています。今回写真で紹介しているのは、駒本小学校の様子です。青少年委員も学校運営連絡協議会のメンバーとなり、教育環境をより良くするための話し合いに参加しています。この会議のなかで協力依頼されたことを中心に、地元商店街

での「お店屋さん体験授業」の日程調整を行ったり、特別授業の外部講師を探したり、授業を手伝うボランティアの依頼などを行っています。また今年度は開校60周年記念事業の事務局として、記念誌や祝賀会の企画運営に関わってきました。学校の教育方針に沿いながら、子どもたちを地域の方々とともに見守り育てる活動を、今後も続けてまいります。



「本郷小まつり」は、本郷小学校開校10周年を記念して7年前から地域の方々とのより密な交流を目指して始まった、開校記念日に行っている学校行事です。当初は地域の方々が昔遊びの「～名人」になり、本郷小学校の4年生の児童が弟子入りし、昔遊びを覚えて名人と一緒にお店屋さん形式で何店も出店。そこに全校児童が遊びに来るといったスタイルで行ってきました。

本年度からは今までの経験を活かして、4年生以上の児童たちが自ら昔遊びなどの出店・内容などを企画し、地域の方々がその運営をサポートするスタイルになりました。参加した児童は皆、真剣にお店屋さんの店主として運営してくれました。また、遊びに来てくれた児童も皆、色々な昔遊びに熱中していました。見学に来られた保護者の方も懐かしい遊びに、自分のお子さんと一緒になって熱中している場面も多く見られました。

こうして7年目を迎えた「本郷小まつり」は、これからも地域の方々を支えられながら、児童の皆さんと一緒にますます盛り上がっていくことでしょう。私たち青少年委員も地域の方々や学校をつなぎ、この行事をまとめる立場としてしっかり頑張っていきます。



第八中学校では11月8日に、親子ふれあい事業として「地域防災訓練」を行いました。PTA主催の地域防災訓練でしたが、八中の保護者・千駄木町会・文京区防災課・本郷消防署・本郷消防団の皆様と一緒に、青少年委員も参加協力いたしました。

参加者は生徒を中心に3班に分かれ、災害時を想定した訓練を行いました。1班はスタンドパイプ・D級ポンプ放水訓練、2班は防災釜を使つての炊き出し訓練、3班は備蓄倉庫の備品の活用について学び、いざという時に避難所となる中学校で何が出来るのかを学びました。昼食用に炊き出しで作成したカレーライスをいただいた後、福島県いわき市で避難所運営リーダーをされていた方からお話を伺って、訓練を終了しました。

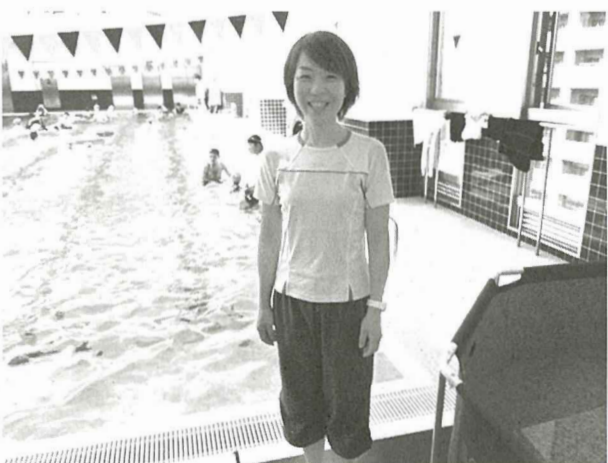
今回は八中生徒と保護者、地域の方々が合同で行う初めての防災訓練でした。初回の防災訓練でしたので、八中保護者は見守りにまわりました。次回は生徒とともに訓練に参加したいとの感想をいただきました。保護者の皆様の要望も大切にしながら、今後もこの取り組みが継続できるように青少年委員も協力していきたいと思ひます。

地 域 活 動

青少年委員は担当校の地域における、青少年育成事業にも参加しています。一例として、写真で紹介しているのは、地域住民へのプール開放事業(向丘地区対主催/六中プール)・大原夏まつり(大原地区対主催/十中校庭)・クリスマスクッキー作り(駒込地区対主催/九中家庭科室)の様子です。いずれも学校施設を使いながら地域や保護者の方々を中心と

なって日頃できないような体験の場を子どもたちに提供しています。

私たち青少年委員は担当校と施設利用に関する相談を行いながらこれらの行事にも積極的に協力しています。皆様の地域でもたくさんのイベントが計画され、町会掲示板などで紹介されています。ぜひご参加いただき、地域の人とのつながりを深めてください。



放課後 支援

放課後や休日に校庭など学校施設を利用した子どもたちの居場所作りを行っている青少年委員もいます。今回写真で紹介しているのは、駕籠町小学校（放課後全児童向け事業/駕籠町子ども広場）の様子です。青少年委員は学校や行政と放課後支援の方法について話し合いを行い、より安全安心な居場所の提供を目指しながら、見守りボランティアの募集を行っています。ときには、青少年委員も見守りボランティアに入り

ます。

駕籠町子ども広場は、保護者や地域の皆様にご協力いただきながら約20名のボランティアがお手伝いくださり、1日あたり80名以上の児童が遊びに訪れることもあります。

私たち青少年委員は今後も放課後支援活動が広がるように、連携を密に取っていききたいと思います。



勉強 合宿

文京区教育委員会の教育目標である「自ら考え、表現し行動する人の育成」「心身ともに健やかで、自他を尊重し人間性豊かにたくましく生きる人の育成」を達成することを目的として、「夏休み勉強合宿 in 八ヶ岳

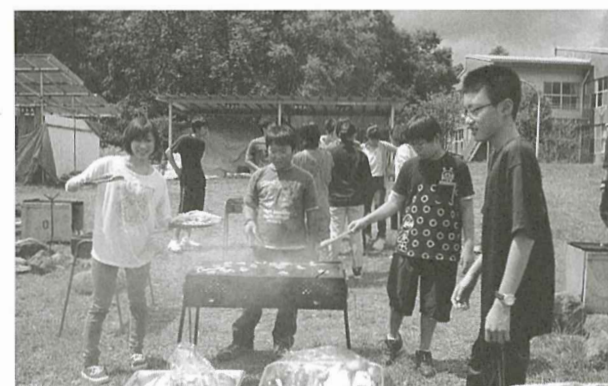
～長い夏休みの締めくくりに、大自然の中で楽しく真剣に『勉強合宿』に挑戦しませんか?～」と題した事業を行いました。

8月23日～25日の2泊3日、文京区の施設である八ヶ岳高原学園において、13時間の勉強にチャレンジしてきました。参加者は小学生7名・中学生6名の計13名。合宿中は子どもたちの自主性を重んじ、事前に配布された「チャレンジシート」に自ら計画を立てて学習していきま

した。「13時間の勉強にチャレンジ!」と一言でいっても、集中力を保つのは並大抵のことではありません。1コマ1時間の自習時間を計画的に使い、休憩や食事の時間などを挟みながらメリハリの利いた3日間を過ごしました。

小学生の中には1コマの中の時間配分さえも、最初は上手くできない子もいました。勉強でわからないことにぶつかったとき、計画どおりに進まない、あるいは進み過ぎてしまったときなどには、青少年リーダーに相談しながら勉強を進めていました。子どもたちが他の子の頑張っている姿を見て、面倒くさい気持ちを抑え、とにかく頑張ってみようという自らの奮い立たせていく姿は、私たち青少年委員の目にも非常にたくましく映りました。そして何よりルールを守らず勝手な行動をする子が一人もなく、初めて出会った子どもたち同士が上手に交流していく姿は微笑ましく、とても嬉しく感じました。

子どもたちの笑顔と「勉強が好きになった!」という感想は、青少年リーダーや青少年委員にとっても、最高の夏の思い出となりました。参加してくれた子どもたちと送り出してくださった保護者の皆様、この事業にご賛同いただきご協力くださった本郷台中学校の森校長・伴内先生に、深く感謝申し上げます。次回も多くの子どもたちの参加をお待ちしております。



こどもまつり

文京区家庭の日・家族のふれあい事業の一環として開催されている9地区合同「文の京こどもまつり」において、青少年委員会は『文文(ぶんぶん)ぶーめらん』のブースを運営しました。厚紙3枚を組み合わせて色を塗るだけで小さな子どもにも簡単に作れることから、自分だけのオリジナルな宝物で遊んでもらおう!という青少年リーダーの企画です。羽の角度の微妙な調整で飛び方が変わる体験を通して、創意工夫する気持ちを

育てることも目的としています。当日はたくさんの子どもたちの笑顔を見ることができました。

青少年リーダーとは、自主的に青少年委員の事業活動に関わってくれている中学生～大学生までのボランティアメンバーです。私たち青少年委員は、青少年の健全育成も活動目標のひとつとして捉え、彼らがリーダーシップを発揮できるよう支援を続けております。



青少年委員に期待することは何ですか？

文京区立中学校校長会より 戸部 範一校長 (茗台中学校)

「子どもは、家庭で躰けられ、学校で学び、地域で磨かれる」と言われます。日頃、児童や生徒を巻き込んだ「文の京クリーンウォーク」や「中学生サミット」など区内小中学校の横断的な取組により、子どもたちを磨いていただいております。

今、文京区では中学校における学校選択制度により生徒の通学区域が拡大していますが、そのような中で、所管が教育委員会にかわられた文京区青少年委員の方々には、改めて学校と地域のパイプ役としての役割がより一層期待されていると思います。今後ますますの学校支援をよろしくお願いいたします。



文京区立小学校校長会より 矢島 清重 校長 (汐見小学校)

区立小学校校長会長の矢島です。

青少年委員の皆様には、いつもご支援を頂きありがとうございます。特に、青少年委員の方には、学校だけでなく、地域の活動も担っていただいております。

私たちが学校を運営していくためには、学校・保護者・地域が三位一体で活動する必要があります。地域の顔として、その橋渡しをしてくれるのが青少年委員だと思っています。

それは、皆さんが、学校のPTAでの活動・地域で活躍された実績があり、その活動が認められて、選出されたわけです。そこで培われた力を生かすことが必要です。私たち校長は、皆さんのそのお力を貸していただき、素晴らしい学校を創る責任があります。

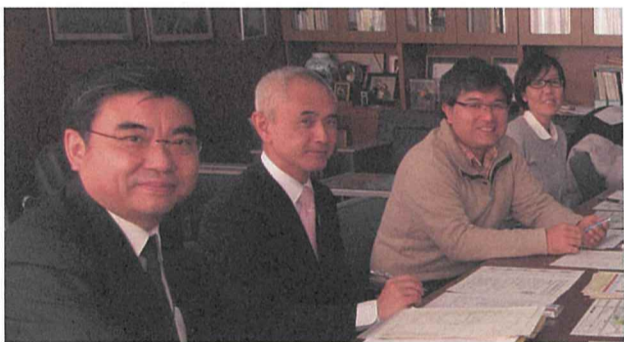
これからは、さらに、学校・青少年委員・区教育委員会が連携していく必要があります。

それぞれが、信頼・尊重して活動することが大切です。今後よろしくお願いいたします。

青少年対策地区委員会より 河西 輝久 会長 (湯島地区対)

湯島地区対では青少年委員3名も役員となり、各行事の企画・運営を行っています。特に「地域子どもプラザ」は湯島地区対で30年ほど続いている行事で、開始当初に企画へ関わった中学生が、今では地域の青年リーダーとして関わってくれるようになりました。湯島小・本郷小・本郷台中を順番に会場としながら、当初の理念をそのままに中学生が企画に関わって小学生や未就学児を喜ばせ、その中学生を大人たちがフォローしながら育成していく体制が整っています。「地域子どもプラザ」を応援して下さる協力団体も増えてきました。その中で、青少年委員も重要な役割を果たしてくれています。

青少年委員にはこれからも、地域と学校のパイプ役を担って欲しいと思っています。青少年委員の活動がイベントありきで終わることなく、関わった児童・生徒が成長して地域に戻ってきてくれることが理想でしょう。文京区全体を見渡しながら、学校や地域間で横断的な活動が行えるのが青少年委員の強み。これからも青少年委員と地区対が手を携えて、子どもたちがより良い体験を得られるように頑張っていきたいと思います。



■新任の青少年委員紹介

26年度4月時点で不在となっていた柳町小学校から、青少年委員が選出されました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

また、大塚小学校・窪町小学校の青少年委員は一身上の都合により退任されました。現在、後任の委員を選出中です。音羽中学校の青少年委員(定数2名のうちの1名)も、引き続き選出を行っております。

新たな委員が決まり次第、皆様にお知らせいたします。

林 博宣 委員(柳町小学校)
子どもたちと地域のためにできることを精一杯頑張ります。

■インフォメーション

27年度も様々な事業を通じて、学校と地域を繋ぎながら子どもたちのために活動を続けてまいります。皆様の参加をお待ちしています。

各青少年委員の活動内容や、今回ご紹介しきれなかった活動報告・行事予定などは、青少年委員会のホームページに掲載されています。是非ご覧ください。

【ホームページアドレス】 <http://www.bunkyo-seishounen.com/>

■編集後記

26年4月に、今期(26・27年度)の青少年委員が各小・中学校から選出されるとともに、所管がアカデミー推進部から教育委員会へ移るなど「変革」の1年となりました。

各委員へ期待される役割も、学校支援を中心に、活動の幅が広がっており、それが紙面からもおわかりいただけるかと思っております。次号以降もご期待ください。(編集委員・事務局一同)